

特選 高校の部

「水を縫う」を読んで

関西創価高1年 藤野美紀子さん

最初、私が清澄に抱いた気持ちは羨望（せんぼう）だ。「男なのに」なんて声に縛られず、刺繍（ししゅう）という確固とした自分らしさを持つ彼の姿が眩（まぶ）しかったし、その個性を貫ける強さが羨ましかった。そしてまた、周りと違うことを恐れない清澄は、みんなと同じでいたい、普通でいいと願う自分とは正反対の存在だった。

この本では、「家族」という最も身近な存在との価値観のぶつかり合いが描かれる。かわいいを拒む姉、子どもに無償の愛を注げない母、金遣いが荒く子守りすらできなかった父——清澄の家族はみな、世間で言う「普通」からはみ出た人ばかりだ。その根底には愛があり、互いに心から思い合っているはずなのに、彼らはすれ違ってしまふ。ストーリーの中心は、清澄が作る姉・水青（みお）のウェディングドレスだ。清澄は、きらびやかなドレスを拒む姉のためにドレスを作ってあげようとするが、姉が求めるものと自分が考えるものとの違いに行き詰まってしまう。そのとき清澄が助けを求めたのが、かつてデザイナーを目指していた父・全だった。全は、清澄が小さい頃に母と別れて家を出た。そんな父を頼りなく思っていた清澄だが、手品のように美しいデザインを施していく全の姿と、完成したドレスを目にし、感動をあらわにした。しかし、清澄の顔はすぐに曇ってしまう。「自分ならできる」と信じていた彼にとって、姉の意思に沿うドレスをデザインできず、最後は父に作ってもらったことがたまたまなく悔しかったのだ。

私は、この本は清澄の華々しいデザイナー人生のスタートを描いたものだと思っていた。しかしこの場面を読んで、これは彼の挫折のストーリーだったことによりやく気がついた。きっと清澄は自分の力のなさを痛感し、届かない世界があることをその身で感じただろう。でも清澄はそれならと、自分の得意な刺繍で姉への思いをドレスにこめようと決めたのだ。挫折から立ち上がるその力強さを不思議に思い、読み進めていくと、私は彼の名前の由来にその理由を見つけた。

流れる水は、けっして淀（よど）まない。常に動き続けている。だから清らかで澄んでいふ——そこから全が名付けた清澄という名前。その清らかというものについて、全は言葉を続けた。「一度も汚れたことがないのは『清らか』とは違う。進み続けるものを、停滞しないものを、清らかと呼ぶんやと思う」たとえ傷つくことがあっても、そこからまた一歩踏み出すことこそが美しい。私はこの言葉をそう捉えた。母は「強そうな名前に」と願ったけれど、それでも全は、流れる水の美しさとそこに秘められた強さを清澄に託したのだ。そこには確かに、父としての深い愛情がこめられていたと思う。清澄はその愛を受け取り、失敗しても進み続けることが本当の強さだと知っていたから、壁にぶつかってもまた立ち上がることが出来たのだ。

全は作中で、しばしば失敗例として挙げられる。しかし、本当に彼の人生は失敗だったのだろうか？ 全は名前を通して、くじけそうになった清澄の背中を押した。だから清澄はもう一度前を向き、踏み出すことができた。全は、世間で言う「理想の父親」からは遠く離れているかもしれない。しかし、確かに清澄を愛し、前に進む力を与えた全の人生は、決して失敗なんかじゃなかったと私は思う。悩みながらも挑戦し続ける清澄の姿が、そう気づかせてくれたのだ。

この本に出会うまで、私は「普通」の枠に入ることが正解だと思っていたし、そうでなければならぬと思っていた。しかし、世の中に無数に存在する「こうあるべき」「こうでなければならぬ」というものからはみ出ることが本当に間違っているのか。私は清澄から、そう問いかけられたように感じた。清澄をはじめ、この本の登場人物はみな、どこかで普通から漏れている。しかし私が読む中で、この中に不幸だと感じた人は一人もいなかった。普通でなくとも、理想とされる姿でなくとも、彼らは自分らしさの先に小さな幸せを見つけて生きていた。これは失敗でもなんでもなくて、これこそが本当の意味で「生きる」ということなのかもしれないと思う。このことは、「こういなければ」と決めつけて自分の気持ちに蓋をしていた私の心を楽にしてくれた。

また、この本には何度か「失敗する権利」という言葉が登場する。一般的に恥とみなされる失敗というものを、あたかも経験できることが幸せと言うかのように、あえて権利と呼ぶのだ。私たちはこれから何度も失敗を経験して、その度にまた一つ大人になっていくのだと思う。そんな子供と大人の狭間である高校生という時期に、失敗することへの恐れや恥じらいを取り除いてくれるこの言葉に出会えて本当に良かった。そして、この本からもらった一歩前へ踏み出す勇気を持って、私も清澄のように流れる水でありたいと願う。

（「水を縫う」寺地はるな／集英社）